朝の学び「主の教会につらなって生きる」

第48回　牧会（７）

　聖書は健康や病気を身体的、医学的な事柄に限るのではなく、魂と肉体をそなえた人間の全体性においてとらえます。ある神学者は、人間はこの地上にあっては絶対的な、あるいは完全無欠な健康を知ることはないと語っています。なぜなら聖書によれば人はアダムから受け継いでいる原罪によって、生まれながらにすこやかさを損なわれているからです。

　では、わたしたちは絶対的な健康、完全な意味における健康を望むべくもないのでしょうか。そうではありません。完全な意味の健康は神の国においてわたしたちを待っているのです。

　人間の完全なすこやかさとは、創造された時のアダム、すなわち罪に堕ちる以前のアダムが持っていた健康です。わたしたちはアダムにあってこれを失いましたが、キリストにあって今それを回復されつつあります。そして終わりの日の復活において文字通り回復させられるに至るのです。キリストの十字架と復活の恵みによって、人は本来の健康を取り戻されていく祝福のもとに置かれるのです。

　そうしたことを知る時にこそ、病気の意味をもまた知ることになるでしょう。救いを受けてキリストのものとされるとき、わたしたちは命も健康も神の賜物であることをさとり、神に感謝して生きる者となります。さらに聖化の途上にあって、わたしたちはしばしば自分の（魂と肉体の双方における）弱さに悩まされます。自分が土の器であることを思い知らされます。けれどもそうしたときにこそ、自分が神の助けと支えにあずかって生きることをゆるされている事実をも知るのです。病を得ている時にこそ、健康な時以上に自分がキリストのものであることを知らされるということがあるのです。

病気が神の助けを知る場所となるのであれば、病気もまた神がゆるしたもう境遇であることを知ることができます。また、そうであるからこそわたしたちは病気の癒しを祈り求めることができます。わたしたちはキリストにあって完全な健康を回復させられる祝福の途上にあります。それはキリストがわたしたちの（魂においても、肉体においても）健康を願っておられ、わたしたちが健康であることができるように今も働いておられ、さらにわたしたちの健康をおびやかすものとたたかっていてくださるということです。

ただ、地上で健康を回復されることがもはやゆるされないという場合もあります。そのときにはわたしたちの牧会は、病者がさらに大いなるすこやかさを得るための備えの業となります。すなわち死の試練を経ての完全聖化、永遠の命へと向かう大いなる道筋に寄り添うのです。